

当院における慢性腎臓病透析予防支援の効果 研究実施のお知らせ

本施設で実施しております以下の研究についてお知らせ致します。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

なお、試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究の対象となる方（あるいは代理人の方）にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。

研究課題名	当院における慢性腎臓病透析予防支援の効果と今後の課題
研究責任者	右高 美由紀
研究期間	期間：（開始）2024 年 6 月 1 日 ～（終了）2026 年 12 月 31 日
研究の対象	当院透析予防外来通院中の慢性腎臓病透析予防指導管理料算定患者 48 名
研究に用いる試料・情報の種類	☐ 試料等 ☒ カルテ情報 ☐ アンケート 年齢・性別 採血・尿検査結果（糸球体ろ過量・推定一日塩分摂取量・推定一日タンパク摂取量・推定尿蛋白定量）
研究目的・意義	我が国における慢性腎臓病（以下 CKD）患者数は約 1330 万人と推定され、新たな国民病として対策が急務となっている。CKD 進行に伴う慢性腎不全への移行とそれに伴う末期腎不全への移行とそれに伴う人工透析導入の増加は、患者の QOL を低下させるだけでなく医療経済的にも重大な課題である。そのため、透析導入を遅延・回避させるための早期からの臨床的アプローチの確立が強く求められている。 CKD の進行過程において、過剰な食塩摂取の是正と尿蛋白の低減は極めて重要な治療標的である。食塩の過剰摂取は血圧上昇を招くだけでなく、腎血管の圧力を高めて尿蛋白を増加させ、直接的な腎障害因子となる。診療報酬において「慢性腎臓病透析予防指導管理料」が新設・評価されているように、医師、看護師、栄養士などの多職種チームによる包括的な「透析予防外来」での介入は、患者の行動変容を促す有効な手段として期待されている。しかし、実際の臨床現場における多職種支援が通院患者の減塩行動をどの程度達成し、それが主要な腎予後指標である尿蛋白量の減少にどう直結しているかの実証的な評価はまだ十分とは言えない。 そこで本研究の目的は、当院の透析予防外来に通院中の CKD 患者を対象に、多職種チームによる生活習慣改善支援が、患者の推定塩分摂取量を減少させ、尿蛋白量を改善・維持させる効果があるかを明らかにすることを目的とする。本研究の成果は、党外来における多職種介入の臨床的有用性を検証し、今後のより効果的な透析予防支援プログラムの構築に寄与するものである。

研究の方法	対象患者 患者層スクリーニング（年齢 男女 腎症ステージ） 支援による ① 糸球体ろ過量の変化 ② 推定一日塩分摂取量の推移 ③ 推定一日尿蛋白定量の推移 データ抽出と解析
外部への試料・ 情報の提供	データは患者層（年齢 男女 腎症ステージ）と糸球体ろ過量・推定一日塩分摂取量・推定一日尿蛋白定量の推移 のみを入力 個人を特定できるような氏名や年齢、住所、カルテ ID 等の情報が公開されることはありません。
本研究に関する 連絡先	船橋二和病院 責任者氏名： 右高 美由紀（外来看護科） 電話： 047-448-7111（平日 9～17 時）